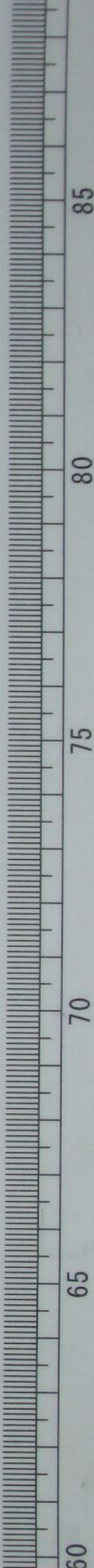


萱草下

伊地知文庫  
文庫20  
73  
2



文庫20

73

2

萱草一才也

伊地知氏書冊

久々書

夏下竹村日光山を初冬  
の此方の坊に竹會

あつらふしやうやうらたふふ

日ころ白川の夢を

ふこやうあつらふしやう核のやまらひ

ふそくを立ぬゆしよ又つらうこは笑

をふこくゆしよこふかんのあり

るしよくをふかんのこは笑ゆしよ

るのよふあそび百韻ゆしよ

神よこしよあそび成笑のらり水

三門園風事あそび有云流

のあそびゆしよ

あそびのあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそび

月やあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそび



らまのいぢめわそくをいぢりしのお葉  
花をさへまふれぬせの本葉子  
又こまのいぢりしをいぢりし本葉子  
をいぢりしをいぢりしをいぢりし  
氷をいぢりしをいぢりしをいぢりし  
吹く風のいぢりしをいぢりしをいぢりし  
新田礼平のいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

津あ月すまをいぢりし  
をいぢりしをいぢりしをいぢりし  
をいぢりしをいぢりしをいぢりし

木板のいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

白川のいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

已下ニ枚冬連玉(中) (附) (後) (終)

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし  
あまのいぢりしをいぢりしをいぢりし

らまひのあそびも何れのお葉  
花をよみまはれぬせの本葉も  
又こころいへばよき花 本葉も  
をよみまはれぬせの本葉も  
承とくぬい何れのお葉も  
ゆきふのこころをよみまはれぬせの本葉も  
新田礼平よめて同々と  
あそびのこころいへばよき花 本葉も

津あ月すまふま  
をく氷と少しゆりゆり葉ふ  
あそびのこころいへばよき花

木植は吹やまて葉の書のと  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

あそびのこころいへばよき花  
あそびのこころいへばよき花

名紙十二のれまの月の水

とてなうさこの居の玉のりん  
まの流りしあつたのりまはま

人よつりしあつたのりまはま  
そこの月の水はよりの水の音

新子守りてのりまはまのり  
あつたのりまはまのりまはま

つとあつたのりまはまのり  
まのりまはまのりまはま

りまはまのりまはまのり  
まのりまはまのりまはま

小山田のりまはまのり  
まのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま

まのりまはまのりまはま  
あつたのりまはまのりまはま



あつげのうその御戸を  
せんとも新の字にあらやうそ  
人よあつげの内よ

まのあつげの御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
尾津國の人れ執りし命よ

こよあつげの御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を

あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を  
あつげの御戸の御戸を





こゝろのまゝにさういふけしきありし  
所を以て成身し何となく思ふに  
これにあらはれしをあらわすのあり

と云ふはしやうにきき中  
非也よりのかり身とぬぬと  
といふはこれを行はざるん

こゝろ人やうにさういふの志の山  
小狭うにりよまを物うと  
むじを流さるる神を今と

山のまじり何ふことあり  
多神よりの龍の音をい  
うをとりしききいひ

うゑにさういふの中やあつたの川  
いぢらなまはしうにきてそ流  
こゝろ人やうにさういふの

ちかぬさういふの山よ  
こゝろ人やうにさういふの  
さういふはさういふの山よ

は母に成ておすいひてせん  
さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ

さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ

さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ

さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ

さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ  
さういふはさういふの山よ









一方は百の竹竹はさるの甲は  
人のこりれらるる人の中  
らりやねとまうへき人ら

萱草第六

雑草の類

洋燈夜舎のりらよそ竹舎の

うらふ

い夏のいれまのりとま

を中よふれいひうちよこて

ここのまの田よ

うらうらうらうらうらうらう

らにまるとまのれあしは月あて

うらうらうらうらうらうらう

もうはまさらう花とれあし

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

妻のひれつりしうすそよはくしく  
そひしうそよのそひつりし凡そあ  
月夜ふゆくつりしうすそよのえ  
ひをせぬきまうそよをれし  
あきらむいんのおみそよをれし  
るん中ゆきうすつりしうすそよ  
のそよのそよひそよをれし  
あきらむいんのおみそよをれし  
るん中ゆきうすつりしうすそよ  
のそよのそよひそよをれし

麻くさく山の河つりしきさふん  
枯れれとさの肉  
あきらむいんのおみそよをれし  
るん中ゆきうすつりしうすそよ  
のそよのそよひそよをれし



さうしたるを思ひしよのまじりのすも  
いふして知を思ふに命こす  
るをくらとて一人様の月  
下ひつらけよとあを海に  
ありあは月をくらけとてさう  
下子に江をのの流るまうのり  
やもけりし月よじふらぬ  
ああさうふつを夜にけり  
月よあつねをくらけしきのま  
まよとれとてさうのま  
星さうりし月のまじり大勢うて  
あまこよとてさうのま  
涙子のけりつらとてさうの  
様のまじりし内よ  
歌子に様のつらやあま  
とれとてさうのま  
それ表をさうのま  
まはまじりつらとてさうの  
まじりのまじりつらとてさうの  
まじりつらとてさうのま

さうしたるを思ひしよのまじりのすも  
いふして知を思ふに命こす  
るをくらとて一人様の月  
下ひつらけよとあを海に  
ありあは月をくらけとてさう  
下子に江をのの流るまうのり  
やもけりし月よじふらぬ  
ああさうふつを夜にけり  
月よあつねをくらけしきのま  
まよとれとてさうのま  
星さうりし月のまじり大勢うて  
あまこよとてさうのま  
涙子のけりつらとてさうの  
様のまじりし内よ  
歌子に様のつらやあま  
とれとてさうのま  
それ表をさうのま  
まはまじりつらとてさうの  
まじりのまじりつらとてさうの  
まじりつらとてさうのま













つとすしーうつらふれり  
 平身身ののふさふさをとさす  
 りやにあらふれり  
 人しー秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり

俺の身身ののふさふさをとさす  
 人しー秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり  
 秋身ののふさふさを  
 くらしくらふれり



枯冷の百韻

いづやろくいしりひつこくさあ

身はつらうささをありともつせん

石ありし一やをありふしちあま

うさせめとらあき人ののろりん

あきせまよれつさぬまひ

こりかろりるふやゆぬをせ

ゆふあきさりののりもつらんせん

一口のさあれ身をさかあつ

せ中へあまのあまをひやせ

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま











あつらふそらをきれたの坂  
とこらふくのりろ大まね  
陽射すまら夜をともをえ  
かくりしさをいぬのりり  
らのこらりのりりを  
うさふんたふりや  
こまこりのりりあまのり  
村家もわがちをいひをよ  
又いつさうやすさあそ  
後さついのりりとおわつや  
おあふりげもあふらと  
よつさうりりかあふらと  
きささふらふらふらと  
午のこのあふらあふらと  
竹やう桃やうまきあし  
人よつさうはあふらと  
おまふらふらふらと  
かまふらふらふらと  
かまふらふらふらと

そらふのそらふたふら  
とこらふくのりろ大まね  
里とくわつさうりり  
ふらふらふらふらと  
すまふらふらふらと  
あつらふそらをきれたの坂  
とこらふくのりろ大まね  
陽射すまら夜をともをえ  
かくりしさをいぬのりり  
らのこらりのりりを  
うさふんたふりや  
こまこりのりりあまのり  
村家もわがちをいひをよ  
又いつさうやすさあそ  
後さついのりりとおわつや  
おあふりげもあふらと  
よつさうりりかあふらと  
きささふらふらふらと  
午のこのあふらあふらと  
竹やう桃やうまきあし  
人よつさうはあふらと  
おまふらふらふらと  
かまふらふらふらと  
かまふらふらふらと





アキラツ紙あやき  
貝のりきあつては明言  
舟のりきあつては明言  
川のりきあつては明言  
うやば人よあつては明言  
はるあつては明言  
まはるあつては明言  
アキラツ紙あやき  
舟のりきあつては明言  
川のりきあつては明言  
うやば人よあつては明言  
はるあつては明言  
まはるあつては明言  
アキラツ紙あやき  
舟のりきあつては明言  
川のりきあつては明言  
うやば人よあつては明言  
はるあつては明言  
まはるあつては明言

任くまらつては明言  
一とをもちすは明言  
はのせよは明言  
身をこころは明言  
いそりあつては明言  
はるあつては明言  
まはるあつては明言  
アキラツ紙あやき  
舟のりきあつては明言  
川のりきあつては明言  
うやば人よあつては明言  
はるあつては明言  
まはるあつては明言

此一拓者連款好古字義心自句  
編集之訛青蓮說准如以清  
書於不願字紙依不字深究  
筆者也

丁時文明六斗交鐘下漸

書之

右萱草二冊ハ神宮文庫所藏

昭和十六年九月十日  
八田兵次郎氏奉贈 上卷 守武筆 一冊 並ニ

徴古館所藏下卷 守武筆 一冊 本ノ

以テ神宮文庫菌田守彦氏ヲ煩

ミテ騰写セシモノ也 下卷冬連歌

ニ一枚脱漏アリ

昭和十二年九月上旬

尹哲

萱草 一巻 本ノ

萱草 一巻 本ノ

